

夏の誓い

小坂井中・1 中西 健

ついに始まるゲームさんまいの日々
チャイムとおさらば
楽しもう

海、バーベキュー、花火大会

人であふれている

家族もみんな満面の笑顔

平日は母が仕事

さて

今日もなにしよう

「ねえ、宿題ちゃんとやってんの。」

母を真似した姉の小言

手をつけていないが問題ない

姉は以前 母にど怒られたらしいが

僕には

関係ない

気にせずゲーム

母は僕に甘い

問題ない

帰宅した母

「ねえ、ちゃんと宿題やってるの。」

「他の子はだいぶ進んでいるよ。」

僕は言う

「だいじょうぶだって。」

優しい母の顔

問題ない 問題ない

まだまだ時間はある

ゲームで建物をつくったり戦ったり

ときには友達と遊んだりした

憂うつ

僕は宿題に全く手をつけていなかった

ここまできると悲しい

いや 怒りか

今日までゲームをしていた自分を殴りたい

この怒りはまるでマグマのように熱い

母に怒られるかもしれない

僕は焦る

この汗は滝のようだ

焦る僕と止まらない時計の針

先の見えない絶望

宿題に手をつけ

ページを開く

分からない

分からないのだ

ぼくの汗は止まる

そして手も

数式がかすんで見える

もう駄目だと諦めかけたとき

ぼくには一つの道が見えた

答えを見よう

一筋の希望

母の目は別の方を向いている

僕は急いで答えを写す

何かに終われるように速く

その速度はまるでスーパーカー

あと少し

あれ

料理をする音がしない

次の瞬間 後ろに気配を感じた

希望から絶望へと

もう駄目だ

後ろを振り向けない

僕の夏休みは終わった

ゲーム機からの反射で見えるえん魔王の顔

母の射程圏内

でも

怖くて素直に謝れない

再びふき出す汗

いつもよりはつきりと聞こえる

料理を作る音

無言の恐怖

その日

僕は母から怒られなかった

数年前の姉とは違う恐怖

「私のときより怒っていたね。」

姉は他人事のように笑顔で言った

答えを写してはいけない

姉の小言はたまには聞く
母を怒らせてはいけない
強く心に誓った
僕の夏